

陳 述 書

平成29年9月13日

住 所 大阪市中央区大手前3丁目1-69
大阪国際がんセンター

氏 名 大江洋史 (大)

1 はじめに

今回、センター内のサーバー上で医薬品処方指示（オーダー）の情報を検索してもらい、病院では、一審原告に対する治療以前に、少なくとも4人の患者について、慢性ふらつき・めまいの症状に対してランドセンを処方していることが確認できました。

これらは院内のサーバーに情報が保管されていたデータからカルテを特定できたものです。他にも私が慢性ふらつき・めまい症状の患者にランドセンを処方した例はありますが、院内のサーバーにオーダーの情報が全て残っているわけではなく、私がランドセンを処方した全ての患者についてカルテを確認できたわけではありません。

今回明らかとなったものについて、カルテを見た上で、以下のとおりに報告いたします。なお、以下の報告は、カルテの記載に基づく忠実なものであって、カルテに記載のない事実を付け加えたり、私に不利と思われる事項を隠したりしたものではないことをはじめに申し上げておきます

2 各症例について

(1) 症例①について

この患者さん（「Aさん」とします。）は、50代女性、初診日が平成15年9月11日の方です。他院から紹介を受けて来院し、初診時は成富医師が診察されました。

初診時の説明によると、5年前からめまいがひどくなり、他院を受診してデパスを服用していたが、症状が改善しなかったとのことでした。「慢性ふらつき症状」という診断名がつけられており、他にうつ状態や耳鳴りの症状があったとカルテ上は記載されています。

そして、脳磁計検査を行うため、私がAさんの担当となり、9月16日に脳磁計検査実施しました。この時のdirot値は3.11で、異常が認められました。

そこで、Aさんは9月24日から入院となり、翌日からデパケンRの処方が開始されています。

ところが、デパケンRの処方により、ふらつきが増悪し、歩行器がないと歩けないという状態になったことからデパケンRは中止されました。

そこで、次に、私は成富医師の指示を受けて、ランドセンを処方してみることに
なり、10月8日からランドセン（0.5mg：1錠）の処方を開始しました。

Aさんは、ランドセンを処方した後、症状に改善がみられ、10月9日に実施した脳
磁計検査では dirot 値が 2.98 まで低下しました。

そこで、Aさんは、約1週間後に退院となり、外来での診察を継続し、ランドセン
の処方を継続しました。

カルテの記録によると、平成15年11月5日に0.5mgを1日1錠から2錠へ（1日
合計1mg）、平成16年6月16日に1日2錠から3錠（1日合計1.5mg）に増量して
います。

なお、Aさんは、私が国循を退職したため、平成17年9月1日が最終の診察日とな
り、めまい外来のあるクリニックに紹介して診察終了となっています。

この方は、ランドセンの効果があったことが確認され、平成15年10月から平成17
年9月までの期間にわたり処方がされており、処方継続や増量等により、慢性ふら
つき症状は改善され、特に不調を訴えるということもありませんでした。

(2) 症例②について

この患者さん（「Bさん」とします。）は、70代女性で、初診日は平成14年8月16
日となっています。

Bさんは、成富医師が最初の診察を行っており、半年前にベッドに座ったら沈み込む
ような感じがして失神し、他院に1ヶ月半ぐらい入院したが、めまいが続くとして紹
介を受けて来院した方です。

初診時の診断名はめまい症候群、頸性めまい、うつ状態となっており、C型肝炎の既
往症もあったことが確認されています。

その翌日から検査入院となり、私がBさんを担当することになりました。

脳磁計検査を実施したところ、Bさんの dirot 値は 3.69 であり、異常が確認されま
した。そのため、デパケンRの投与を開始しました。

そこで、退院後外来で診察を継続していましたが、血液検査で肝機能障害が確認さ
れたことからデパケンRは中止となりました。

ただ、デパケンを中止してもめまいが消失していたことから、しばらく経過観察を
続けていました。

ところが、9か月程度経過した頃にめまいが生じたとの訴えがあり、平成15年1月
21日に脳磁計検査を実施したところ、dirot 値は 5.54 と高くなっていました。

そこで、前回効果があったデパケンRの処方を再開したものの、やはり肝機能障害
が判明したため、ほどなくしてデパケンRは中止となり、前回と同様に経過観察とな
りました。

ただ、この時もBさんはめまいは消失していると言っていましたので、他院にも並
行して通院してもらっていました。

平成15年10月頃に、再びBさんからめまいの訴えがあったため、10月7日に脳磁計検査を実施したところ、dirot値は3.68となっていました。

デパケンRでは肝機能障害の副作用が見られたことや、dirot値が比較的高かったことから、ランドセンを処方することになり11月25日からランドセンの処方を開始しました。

本人からはめまいはないとの報告を受けたため、処方を継続したところ、平成16年2月9日の外来受診ではめまい・ふらつきは消失したとのことでした。

ただ、やはり血液検査で肝機能障害が確認されたため、ランドセンも中止とせざるを得なくなり、これまでと同様に外来受診を継続してもらい、経過観察を行いました。

本人からめまいの不安があると訴えがあった場合に、効果のあったランドセンを処方し、血液検査の結果を踏まえ、処方を継続するかどうか慎重に判断するようにしていました。

カルテの記録によると、平成16年11月16日に脳磁計検査を実施しており、この時のdirot値は2.6であり、改善が認められておりました。

私が退職し、宮下医師に引き継ぎを行った後も、宮下医師も本人がめまいを訴えていたときに順用で処方しているようです。そして、宮下医師のもとでも脳磁計検査を実施しましたが、dirotは2.8となっており、効果は認められていました。

(3) 症例③

この患者さん（「Cさん」とします。）は、70代男性で、初診日は平成15年6月6日の方です。

初診時の説明によると、4年前からふらつきやふらふらする感じがすると訴えており、複数の医療機関を受診したものの、「歳のせい」や「慣れるしかない」と言われ、抗うつ剤の処方がされていました。それでも症状が改善せず、むしろ増悪したため、東京からわざわざ来院してきた方でした。

Cさんの初診時の診断名は慢性ふらつき、気管支ぜんそく、下肢静脈瘤になっています。

まず、検査入院をしてもらい、6月18日に入院し、24日に脳磁計検査実施をしました。この時のCさんのdirot値は5.36で異常が認められました。

これを受けて、私は最初から（6月26日から）ランドセン（0.5mg：1錠）をCさんに処方しました。なぜ、デパケンRではなくランドセンを最初から処方したのかについて、はっきりと覚えておりませんが、Cさんは、dirotの数値が非常に高いということがあり、dirot値が高い患者の場合にデパケンRでは効果がないものの、ランドセンを使って効果が出た例を経験したことがあったため、まずランドセンを試してみることにしたのだと思います。

もっとも、ランドセンの服用により若干の改善傾向がみられたものの、7月3日の血液検査に白血球、赤血球とも減少し、骨髄抑制がみられたことから、ランドセンによ

る副作用が疑われ、ランドセンは中止となりました。

ただ、同日、脳磁計検査実施したところ、dirot 値は 3.07 まで低下しており、症状の改善は客観的にも確認ができました。

そして、Cさんは7月7日に退院し、Cさんの東京の自宅近くの他院に紹介して治療は終了となりました。

他院への紹介状には、我々の研究内容を説明して、慢性ふらつき・めまい症状が抗けいれん薬にて改善する例もあることからランドセンを処方したこと、骨髄抑制の副作用があって投与を中止したこと、今後はより副作用の少ないデパケンRの処方が考えられることなどを記載しました。

Cさん場合には骨髄抑制という副作用が認められたため中止にせざるを得ませんでしたが、脳磁計検査の結果をみてもランドセンによる効果は確認されていました。

(4) 症例④

この患者さん（「Dさん」とします。）は、成富医師が主に担当され、私が脳磁計検査を担当していた患者さんです。

Dさんは、50代男性で、初診日は平成12年11月9日となっています。主訴は「視野がチラチラと下に流れ、後頸部で脈打つような感じの発作があり、頭の中が揺れる感じ」というもので、初診時の診断名は頸性めまい症、仮面うつ病となっています。

カルテを確認したところ、Dさんには、当初はデパスやセルシンなどが処方されていましたが、平成13年2月21日に脳磁計検査を実施され、dirot 値は 1.61 でした。これは成富研究においては抗けいれん剤が効果があるとされる基準値を下回るものではありますが、電流分布図で回転性の電流が確認され、少なからず異常電気活動が認められたことから、デパケンRを処方して様子を見るという判断だったようです。

同年5月28日にもDさんに対して、脳磁計検査が実施され、同じく回転性の電流が確認されたことから、デパケンRが継続され、若干の改善が見られたようですが、大きな変化はないとされています。

平成14年7月23日にも脳磁計検査を行いました。回転性の電流は変わらず存在しており、デパケンRが継続されています。その後、症状が変わらないということでドグマチールも試され、若干の改善がみられるようでしたが、やはり少しふらつくという訴えがあったため、平成15年7月14日にランドセンが処方されています。

ランドセンの処方については、Dさん本人からランドセンが効いていると思うとの発言があり、ランドセンの処方が継続されています。

平成18年2月27日にはランドセン0.5mgを1日1錠から2錠（1日1mg）に増量され、平成20年8月27日まで継続して処方されています。

そのため、Dさんについても慢性ふらつき・めまい症に対してランドセンの効果があつた事例といえます。

以上